

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3271800546		
法人名	医療法人 徳祐会		
事業所名	グループホームあすなろ		
所在地	島根県邑智郡邑南町山田76番地2		
自己評価作成日	平成30年3月13日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/32/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=tru&JigyosvoCd=3271800546-00&PrefCd=32&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 保健情報サービス
所在地	鳥取県米子市米原2丁目7番7号
訪問調査日	平成30年3月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個々の生活を大切にしながらも、共同生活のよさを生かして、利用者同士の助け合いの場面も多くみられる。協力して作品を仕上げたり、自分の出来ることを手伝ってくださったり、教えあったりされている。職員は利用者一人一人が楽しく穏やかに、その人らしい暮らしが出来る様に、声をかけ寄り添いながら接するように努めている。天気の良い日には、日光浴や散歩、買い物など戸外へ出かけるようにしている。また、季節ごとに花見、紅葉狩り等の計画をして出かけるようにしている。毎月行っている誕生会はおやつを手作りして喜んでいただいている。お楽しみ献立には、利用者の希望を取り入れ、旬野菜等を利用した料理を準備し、お酒の日には、酒等の飲み物を準備して楽しんでいただいている。公民館で行われる行事や健康診断には出来るだけ出かけるようにしている。近隣の保育園の園児との交流も年に1、2回行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームの周辺には病院、商店、公共施設があり散歩等出かけやすく地域の方と交流をされています。法人の医院が隣に併設されていることから、医療の対応等について、利用者、家族は安心して日々暮らされています。職員は個々の身体状況を把握され役割の支援や楽しく穏やかにその人らしい暮らしができるよう寄り添いながら接しておられます。利用者は笑顔や表情があり利用者同士の会話もあり穏やかに過ごされています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員個人で理念を振り返りながら、利用者にとっての自立支援を踏まえて、よりよい対応をしようとしている。	理念は各ユニットに掲げてあります。職員一人ひとりが個人で理念の振り返りながら、利用者一人ひとりの自立支援に向けた取組みの検討が行なわれています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	散歩時や日光浴をしているときには通りかかりの方と挨拶をしたり、話しかけられたりしている。公民館で行われるがん検診や行事に参加したり、近隣の保育園児と交流の場を持ったり、地域商店街と一緒に買い物にでかけている。	散歩や日光浴等外出時に挨拶や話かけられ地域の方と交流されています。公民館祭に作品を出展する等地域行事にも参加され、地域とのつながりを持たれています。地域の保育園や小学生の社会科見学、中学生の職場体験、ボランティアの受け入れ等もあります。役場主催の介護者家族の会に参加され施設紹介や施設見学を行なわれ地域の方に認知症の理解に努められています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	役場主催で行っている介護者家族の会に参加し、参加者の方へ施設紹介の発表をしたり、施設見学に招いたりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催しており、行事の報告や取り組みの実際を話している。意見等、代表者とも話し合いの中から気づかされたことを行なうようにしている。	2ヶ月に1回運営推進会議を開催されています。利用者状況や行事報告、地域との交流等の報告や意見交換を行なわれています。頂いた意見はホーム内で検討され、支援に活かされています。	会議内容を家族や地域の方中心・市町村・包括支援センターと分けて開催されそれぞれに合った意見交換等を行なわれても良いと思います。また、委員の方に普段のケア内容や食事を食べて頂きご意見をもらわれても良いと思います。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員の中に包括支援センターの職員(役場職員)がおられるので、意見を聞かせていただいている。また、訪問調査等でこられたときにも情報を共有したり、町の検診にも積極的に受診している。	運営推進会議に包括支援センター職員が参加頂き、地域の情報を手協して頂いています。また、介護相談員の方の意見をもらわれている。訪問調査等での情報共有も行われています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束がないように、法人全体の勉強会に出かけたり、カンファレンスでも話し合いをしている。	法人全体でも身体拘束についての研修会や勉強会が行なわれています。出席できなかった職員へは、ホーム内での復命研修やカンファレンス時にも話し合わせ、職員の意識も高いです。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待がないように勉強会を設けたり、日頃の対応について、見過ごされないように、お互いに話し合いをしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	同法人内での勉強会に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明文書を持参して説明に行ったり、来ていただいたときに話している。苦情窓口を重要事項の項目で記載して説明させていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望を遠慮せず行ってもらえるよう配慮して、面会時に声をかけたり、電話連絡時に話を伺うようにしている。伺ったことは報告、話し合いを通して早期に対応できるように努めている。ケーブルテレビ、地域の放送を設置している。	家族面会時や介護計画更新時等に意見・要望を伺う様にされています。遠方の家族には電話連絡を行い意見・要望を伺われています。頂いた意見・要望については、報告や話し合いが行なわれ対応できるよう努めておられます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスの中で、提案や意見があるときには発言してもらうようにしている。不在のときはノートに記載してもらい検討している。	カンファレンスで提案・意見を確認されています。利用者が利用し易い用具や設備、ケアの内容や勤務体制等話し合われています。カンファレンスに参加できない職員には、連絡ノートの記載等利用し、情報共有を行い、検討されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の評価を数人でおこなっており、賞与等で反映してもらっている。勤務の希望を聞き勤務表に反映。家庭との両立を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間を通して研修の計画(外部)をしている。法人内では、研修委員会が設置され、毎月30分の勉強会が2箇所で行われる。また、カンファレンスの時間にケアについて話し合いを持っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の研修会へ参加する中で、他の介護職員との交流を図ってもらっている。また忘年会や旅行等で交流をしている。外部研修時には他の同業者とグループワーク等で交流している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	できるだけ寄り添い話を聞いて不安を取り除くようにしている。行動を特に注意して見ながら他の利用者様とも打ち解けることができるように声をかけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困っていることを伺っている。また今後どうしてほしいか希望も聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談を受けた際に、困ったことを伺うとともに、すぐにできることや、他のサービスの話もしている。通所において、初見時はヘルパーや、ケアマネと同行して顔なじみになれるように勤めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様同士がお互いに声をかけたり、作業等と一緒にしている。また、入居利用者様が通所の利用者様に声をかけていただいて安心される事も多々ある。日々の生活の中で洗濯干しや食器洗い食事の準備等一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や外出、外泊をしていただきながら絆を強めていただいている。電話がしたいときは手伝ってかけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙や荷物が届いた時には、電話等をしていただきお礼を言ったり話をしてもらっている。面会に来られた時は、お茶準備し一緒に飲んながら、話をしてもらったり、外出時に懐かしい方と出会ったときは話の仲介をしている。	家族や知人等の面会もあり、面会時にはゆっくりと過ごして頂けるようお茶等を利用者と一緒に飲まれながら会話を楽しんで頂いています。外出時に懐かしい方と出会われた時には話の仲介をされています。手紙や荷物等が届いた時は電話をかけてお礼や話ができるよう支援が行なわれています。自宅の様子を見に行かれる方もあります。ホーム隣のかかりつけ医の受診時にも、顔馴染みの方と出会われます。馴染みの人や場との関係が継続できるよう支援されています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間で話を持てるように、できるだけ話題を皆さんにふるようにして職員がかかわっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	出会った時や、通りがかった時には、声をかけている。担当のケアマネから、情報を得るようにしている。他施設に移られたときは面会に行くこともある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できるだけ意向に沿うように話しをしっかりと聞き、対応しようとしているが難しい場面もあり、カンファレンス時に検討し、意識の統一をしようとしている。急ぐ場合は、一人で判断せず数人で考えるようにしている。	利用者の日常の会話から思いや意向を把握するように心掛けておられます。対応が難しい方の場合には、カンファレンス時に職員間で検討を行い、利用者に向けての支援が行なわれています。急ぐ場合でも必ず複数職員での検討が行なわれています。	思い・意向、希望より生きがいが持てる課題の介護計画に繋がれると良いと思います。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報を収集してフェイスシートに残し、閲覧できるようにしている。また、そのつど本人に伺ったことを口頭や、個人の記録で伝えることもある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事の準備や掃除等できるだけ一緒に行っている。できることは、カンファレンスで統一してやってもらう様に話し合っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要時家族や本人にも相談はしている。その後職員で考え、本人家族に返すようにしている。	カンファレンスで本人、家族に意向、希望を伺うようにされ、計画に取り組みられています。職員が検討した内容を、計画作成者に報告され、介護計画が作成されます。適宜モニタリングが行なわれており、評価・見直しは6ヶ月に1回行なわれています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に記入して職員間で情報を共有している。課題があればカンファレンスで話し合っている。前日の変わったこと等は申し送り時に伝えるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況や希望に合わせて、柔軟な支援が出来るように努力している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族や友人、美容院、商店街等なじみの関係で声をかけてくださったり、保育園とも連絡を取り行事に参加したり、来ていただいている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	三上医院、富永歯科、前眼科、邑智病院等必要時、往診してもらったり受診の支援をしている。	利用者全員が、併設の経営母体の医療機関をかりつけ医とされています。月1回往診が行なわれています。体調変化がある時等も受診されます。歯科も往診して頂けます。眼科等他科受診の場合には、家族での対応をお願いしていますが、急な変化等ある時は、職員による同行受診は行われています。家族同行受診の時は情報提供が行なわれます。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が週2回バイタル・体調確認に訪問されている。その時に気付いたことや不安な点を相談し、医療機関との連携も取っている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の看護師や、医療連携室の相談員と連絡を取りながら対応をするようにしている。利用者の日頃の様子を、申し送りや、文書にして渡している。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今後の状況等を話しあうようにしている。必要があれば主治医にもかかわってもらい、本人にとってよりよい介護のできる場所を相談させていただいている。	法人の方針で看取りは行わず、入所時にその旨の説明も行なわれています。重度化等状況について必要時に主治医も参加され家族、職員で話し合われています。立位保持の難しい方や食事摂取が難しくなった時は本人にとってよりよい、環境、設備の整った施設等を相談し、支援されています。法人内に老健施設等があり意向はスムーズに行なわれます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急法を消防署の職員に来ていただき訓練した。また、訪問看護師と相談して救急マニュアルを作成し、目の届きやすいところに置いている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防訓練を行っている。緊急連絡網を作っている。地震や、水害については避難経路をどうするか職員で話し合っている。	年2回消防訓練を実施されています。内1回は消防署の立会いのもと消火訓練が実施されています。職員緊急連絡網も作成されています。水害対策は避難経路について話合われています。備蓄は水、食材等が準備されています。	地域の方の協力については運営推進会議で話合われると良いと思います。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	できるだけ相手の立場を考えて接するようにしている。特に排泄や入浴場面では羞恥心等に気を使いながら、清潔が保てるように配慮している。	職員は接遇研修を受けられプライバシー保護に心掛けておられ、声掛けも丁寧に行なわれています。面会の方との会話等も部屋で話されプライバシーが保たれています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	散歩等でかける前に意向を聞きながら対応している。やりたい事ややりたくない事等も行なう前に意向を聞くようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活のリズムを保ちながら、利用者の意向を聞き入れるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧も今までしておられた方はされている。服装も一緒に選んでもらっている。鏡をできるだけ見て声をかけて気づいてもらえるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食事には、利用者とともに準備、配膳、片づけしている。肉や魚が嫌いな方には違う食材で対応している。視覚的に食べやすいように器を工夫している。話をしながら食事をしてもらっている。	法人内の管理栄養士がメニューを作成し1日約1500kcalに設定されホームで食事を作られています。利用者は職員と一緒に準備、配膳、片付け、お盆拭き、茶碗拭きをされています。食事と一緒に食卓を囲みたいという雰囲気でも食事されています。肉や魚が嫌いな方には本人が食べられる食材で対応されます。毎月お楽しみの日も設定されており、楽しみとなっています。誕生会や行事食も行なわれています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の管理栄養士がメニュー製作。約1500kcal/日に設定。DM等があったり少食の方には、ご飯やおかずを少なくしたりしている。一緒に食べる中、切ったり、ほぐしたりして食べて頂くようにしている。おやつの際は好きな飲み物を提供。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声をかけて、行ってもらっている。自分の歯がある方には、時々点検をして磨かせていただいている。義歯の洗浄時、義歯の点検磨きをさせてもらう。週に2回義歯をつけ置き洗浄する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用してトイレ誘導を行っている。利用者の生活に合わせたオムツ等を常に意識して選び、排泄介助を行うようにしている。	排泄チェック表を活用され、トイレ誘導を行いながら排泄支援が行なわれています。また、トイレでの排泄支援の継続を心掛けておられます。利用者の状態に合わせた排泄用品を選び支援されています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	居室のトイレ掃除を毎日することで排泄状況を把握し、下剤の効き目を見ながら飲んでいただいている。水分摂取や体も動かすようにいただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に安全のため日中(午後)に入っていたが、午前中に入りたい等いわれたときにはできるだけ対応している。夜間の入浴が職員の人数が足りず対応できない。	週2回、または2~3日置きに午後入浴の支援が行なわれています。入浴時間の選択、同性介助や2人介助も行なわれています。入浴拒否の方は、清拭や着替え、日にち変える等、対応の相談を行い入浴して頂ける様心掛けておられます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠たそうにしておられる時等には、声をかけて休息していただいたり、夜間眠れないときには、少しそばに付き添って話を聞いたり、好きなように過ごして頂いた後、布団に案内している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬処方時に、そのつど薬の説明書を見れるように、利用者情報のバインダーに入れ、確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	共同、個々の作品を準備したり、花壇を整備したりして、役割が持てるように努めている。ゲームや歌体操等を取り入れて楽しい時間を持てるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族、職員でドライブや買い物等の支援をしている。普段行けないようなところは、ご家族にお願いしている。足の体操を毎日の日課として、取組ことで、出かけられる環境を支援している。	家族、職員でドライブや買い物等の支援が行なわれています。町内の名所に花見に出かけられる等の行事も行なわれています。普段の外出で出かけにくい場所の場合は、家族にお願いされます。毎日の日課で足の体操を行い外出支援の取り組みとされています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	使いたいときには、一緒に買い物に出かけたりしている。お金を持って出かける方も居られる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話等をかけていただいている。贈り物が届いたときは、必ず電話をしていただくようにして話の仲介をする事もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある掲示物や花等を飾っている。共同のトイレは時々職員が確認し汚れていれば随時掃除をしている。浴室は冷暖房完備で、気持ちよく入浴していただけるように温度等の配慮している。	近所の方や職員が持ってきた季節の花や展示物を飾られており、季節感を感じる事が出来ます。テレビ前のソファも多々くつろぐ事ができるようになっています。共同トイレは汚染があれば職員が掃除をされ清潔にされています。冷暖房完備で時季にあわせ温度管理をされ気持ちよく過ごされています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビのあるソファや、畳があるコタツスペース、食堂のスペース等好きなところで、好きな方とゆっくり過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の配置は、(たんすや布団の場所等)在宅の様子を聞きながら、できるだけ似た場所におくようにしている。桐のたんす等家で使っているものを持ってきていただいている。	ベッド、テレビや筆筒、家族の写真など持ち込まれています。ベッドや布団の位置は在宅の様子を聞きながら配置され過ごしやすくされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者用の調理台があり、味噌汁の具財等を切ったり、米を研いでいただいている。居室内に洗面所とトイレがあり、自分でできるように場所名を記載したりして工夫している。		